

中村欣一郎市長の

# 山椒は小粒でも…

心を鬼にして  
「来ないでください！」



Vol.34

この原稿を書いている今日は5月19日。広報とばがみなさんの手元に届くのは6月1日ごろ。約13日間のタイムラグ(時間的なずれ)があります。巷では、5月21日の判断で、全国の非常事態が解除されるのではとの楽観的な見方もありますが、果たしてどうなっているでしょうか。少しずつでも後戻りすることなく、このまま明るい方向へと向かっていけばいいかと願っています。

これまで、防災無線を使って何種類かの放送してきました。いづいごんなタイミングで市民のみなさんにどう呼びかけるのか?「県外からは来ないでください」と言ってしまうていいのだろうか?「県内の人はいいが、県外の人はもうしばらく遠慮ください」としてわかりにくくないか?日々判断に苦慮してきました。

関西圏や中京圏からのお客様に期待する観光地として、大変つらい呼びかけでもあ

りました。同じ伊勢志摩国立公園内の自治体として、伊勢市、志摩市、南伊勢町とともにこの地域への来訪自粛を呼びかけては、このことで話が一致し、4月27日、急ぎ伊勢市役所での共同記者会見となりました。その中で鳥羽は離島特有の感染症に対する不安を、伊勢は神宮参拝の自粛の理解を求め、志摩はサーファー達への呼びかけを、南伊勢は釣り人へのお願いと、それぞれ特徴のあるアピールをしました。

実はその半月ほど前にも同様の共同アピールをしてはどうかとの話し合いをしました。が、話はまとまりませんでした。わずか半月ほどのタイムラグですが、その時はまだそんなことを発信する時期ではなかったのだと思います。

早いだけで効果があり評価されるものと、早すぎたり遅すぎたりタイミングを間違えると効果がないか、場合によっては逆効果になるものがある

ることを強く感じています。日々、刻一刻と状況が変化していくなか、引き続き動向を注視しながら対策に取り組んでまいりたいと思います。市民のみなさんには「不便をおかけしますが、地域が一体となつて取り組むことが何より重要ですので、引き続きのご理解・ご協力をお願いします。」

この広報がみなさんに届くころ、新しい生活様式が「当たり前」の生活様式になり、ワクチンや治療薬の開発にも進展がみられ、明るいニュースでにぎわい始めていることを期待します。



伊勢志摩共同記者会見にて



Vol.193

市民課人権・市民交流係  
☎ 1126

## 乗り越える

ゴールデンウィークを目前に、新型「コロナウイルス」の感染拡大防止のため、全都道府県へと拡大された「緊急事態宣言」は、約1ヶ月の期間を経て、特定警戒都道府県を除く39県で5月14日に解除が発表されました。しかし、緊急事態宣言が解除された後も、ウイルスそのものが根絶されたわけではなく、私たちの生活様式は宣言前と今とは大きく変わりました。

日々の生活で制限が増え、ストレス増加が懸念される中、インターネットなどでは、外出自粛を促すため、「ステイホーム」を楽しむことができる動画の提供や、感染症の最前線で昼夜問わず治療にあたる医療従事者などへの応援メッセージなどが多く投稿されました。

このように現状を少しでも良くしようとする人々がいる一方、感染者やその家族、中国のかたなどに対する誹謗・中傷・偏見といった差別やデマなどもSNSなどで拡散されました。

また、医療従事者やその関係者に対するいじめや偏見、他府県ナンバーをつけた車への嫌がらせなど心無い事案も多数発生しています。

これらは全て人権侵害であり、いかなる理由があろうとも、決して許されるものではありません。出口の見えないウイルスとの闘いに、不安を感じてしまうことがあるかもしれませんが、このようなきそ正確な情報に惑わされることなく、正しい情報に基づいた冷静な対応を行う判断力と、一人ひとりの人権感覚が、求められるのではないのでしょうか。

こつした私たち一人ひとりの行動と心がけの積み重ねが、大切な人を守り、この困難な状況を乗り越える力につながっていくのだと思います。

